# 高等学校 学習指導要領

#### 妣 学 基 礎

1. 目標 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を 高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てる とともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

## 2. 内容

## (1) 宇宙における地球

宇宙の誕生と地球の形成について観察。 実験などを通して探究し、宇宙と惑星と しての地球の特徴を理解させる。

## ア 宇宙の構成

(ア) 宇宙のすがた

宇宙の誕生と銀河の分布について理 解すること。

(イ) 太陽と恒星

太陽の表面の現象と太陽のエネル ギー源及び恒星としての太陽の進化を 理解すること。

## イ 惑星としての地球

(ア) 太陽系の中の地球

太陽系の誕生と生命を生み出す条件 を備えた地球の特徴を理解すること。

(イ) 地球の形と大きさ

地球の形の特徴と大きさについて理 解すること。

(ウ) 地球内部の層構造

地球内部の層構造とその状態を理解 オ 変動する地球に関する探究活動 すること。

## ウ 宇宙における地球に関する探究活動

宇宙における地球に関する探究活動 を行い、その学習内容の理解を深める とともに、地学的に探究する能力を高 めること。

## (2) 変動する地球

変動する地球について観察、実験など を通して探究し、地球がプレートの運動 や太陽の放射エネルギーによって変動し てきたことを理解させる。また、地球の 環境と人間生活とのかかわりについて考 察させる。

## ア 活動する地球

⑦ プレートの運動

プレートの分布と運動及びプレート 運動に伴う大地形の形成について理解 すること。

(イ) 火山活動と地震

火山活動と地震の発生の仕組みにつ いて理解すること。

## イ 移り変わる地球

(ア) 地層の形成と地質構造 地層が形成される仕組みと地質構造 について理解すること。

(イ) 古生物の変遷と地球環境 古牛物の変遷と地球環境の変化につ いて理解すること。

## ウ 大気と海洋

(ア) 地球の熱収支

大気の構造と地球全体の熱収支につ いて理解すること。

(イ) 大気と海水の運動

大気の大循環と海水の運動及びそれ らによる地球規模の熱の輸送について 理解すること。

## エ 地球の環境

(ア) 地球環境の科学

地球環境の変化を科学的に考察する こと。

(イ) 日本の自然環境

日本の自然環境を理解し、その恩恵 や災害など自然環境と人間生活とのか かわりについて考察すること。

変動する地球に関する探究活動を行 い、その学習内容の理解を深めるとと もに、 地学的に探究する能力を高める <u>-</u> لم ح

## 3. 内容の取扱い

## (1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、 次の事項に配慮するものとする。

- ア 中学校理科との関連を考慮しながら、地学 の基本的な概念の形成を図るとともに, 地学 的に探究する方法の習得を通して、科学的な 思考力、判断力及び表現力を育成すること。
- イ 「探究活動」においては、各項目の学習活 動と関連させながら観察、実験などを行い、 報告書を作成させたり発表を行う機会を設け たりすること。また、その特質に応じて、情 報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 野外観 察、調査、データの分析・解釈、推論などの 探究の方法を習得させるようにすること。そ の際、コンピュータや情報通信ネットワーク などの適切な活用を図ること。

## (2) 内容の範囲や程度については、次の事項に 配慮するものとする。

内容の(1)のアの(ア)の「宇宙の誕生」につい ては、ビッグバンを扱い、水素やヘリウムが つくられたことにも触れること。「銀河の分 布」については、大規模構造にも触れること。 (4)の「太陽の表面の現象」については、スペ クトルも扱うこと。また、恒星の進化の過程 で元素が生成されることにも触れること。

イの⑦の「太陽系の誕生」については、惑 星が形成された過程を中心に扱い、惑星内部 の層構造にも触れること。「地球の特徴」に ついては、海が形成されたことを中心に扱う こと。(イ)については、測定の歴史や方法にも 触れること。めについては、構成物質にも触 れること。

イ 内容(2)のアの(ア)については、マントル内の プルームの存在にも触れること。(イ)の「火山 活動」については、プレートの発散境界や 収束境界における火山活動を扱い。 ホットス ポットにおける火山活動にも触れること。ま た、火成岩の観察を行うこと。「地震の発生 の仕組み」については、プレートの収束境界 における地震を中心に扱うこと。

イの(ア)については、地層や岩石の観察、実 験などを行い、褶曲、断層、不整合なども扱 うこと。また、変成岩と変成作用の関係にも 触れること。その「古生物の変遷」について は、化石の観察を行い、地質時代が生物の変 遷に基づいて区分されることを中心に扱うこ と。また、ヒトの進化にも触れること。「地 球環境の変化」については、大気の変化と生 命活動との相互のかかわりを中心に扱うこと ウの⑦の「大気の構造」については、気圧

や気温の鉛直方向の変化を扱い、大気中で見 られる現象にも触れること。「地球全体の熱 収支」については、太陽放射の受熱量と地球 放射の放熱量がつり合っていることを扱い、 温室効果にも触れること。(イ)については、緯 度により太陽放射の受熱量が異なることから. 大気の大循環や海水の運動が生じ、熱が輸送 されていることを扱うこと。また、海洋の層 構造と深層に及ぶ循環にも触れること。

エの(ア)については、地球温暖化、オゾン層 破壊、エルニーニョ現象などの現象をデータ に基づいて人間生活と関連させて扱うこと。 (イ)の「恩恵や災害」については、日本に見ら れる季節の気象現象、地震や火山活動など特 徴的な現象を扱うこと。また、自然災害の予 測や防災にも触れること。